



経済が低迷し地球環境問題が深刻化する中で、経済と環境の両面で持続性が問われています。経済と環境の両立を図り、持続的な地域社会を作り上げて行くにはどうすればよいのか。これがいま私たちに問われていることではないでしょうか。

北九州は高い工業技術力と東アジアとの歴史的なつながり生かし、環境技術の研究開発と応用を通して環境関連産業を集積し、同時に環境技術をアジアに移転する国際協力に取り組んでいます。特に北九州市は官民一体になって環境再生を果たした奇跡の町として、また環境技術の研修事業を通してアジアの人材育成と技術移転に寄与していることで知られています。我が国でもっとも早く設立されたエコタウンは、地域の循環型社会のモデルとして内外から多く見学者を集めています。北九州の環境への取り組みには、地域の研究機関、とりわけ大学が重要な役割を果たして来ましたが、行政や民間の取組みは、大学の環境研究や国際協力にも影響を与えています。

本環境フォーラムでは、行政、企業、学界から講師をお招きし、北九州の環境と国際協力の取組みを紹介していただき、グローバル化の中で持続可能な地域社会を築くにはどうしたらよいか、そのためにはどのような課題を克服しなければいけないのかを考えたいと思います。

20th 地域連携環境教育・研究センター事業 環境フォーラム

2010/03/10 Wed. 13:30-17:30

北九州の環境と国際協力への取組み

行政・企業・学界の視点から

会場：東北大学大学院環境科学研究科 大講義室

13:30

開会の辞

谷口尚司氏 東北大学大学院環境科学研究科長

13:35

北九州市の環境と国際協力への取組み

中藪哲氏 北九州国際技術協力協会 KITA 環境協力センター 所長

14:30

エコタウンとリサイクル事業について
— 企業経営者の視点から —

鹿子木公春氏 西日本ペットボトルリサイクル株式会社 社長

15:25

資源循環・低炭素型都市づくりの学際研究：
福岡市と釜山広域市を中心に

小出秀雄氏 西南学院大学経済学部 教授

16:35

パネルディスカッション

コーディネータ

坂井秀吉氏 東北大学大学院環境科学研究科 教授

17:25

閉会の辞

今野純一氏 宮城県環境生活部長



※お車での来場はご遠慮下さいませ。

参加申し込み・問い合わせ：

東北大学大学院環境科学研究科 研究企画室
物部 (ものべ)

〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-20

TEL:022-795-7408 FAX:022-795-4309

e-mail:monobe@mail.kankyo.tohoku.ac.jp



TOHOKU
UNIVERSITY